



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第105号

2012.10.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- ー 観察会の日程変更について
- ー リーフレットのリニューアルについて
- ー 館内展示の変更について

活動報告

- ー 霧ヶ谷湿原 秋の生き物観察会
- ー 霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）
- ー 深入山の植物観察会
- ー キノコ観察会
- ー サツキマス保全の試み

観察会案内

- ー ゴギの産卵の観察会
- ー 八幡高原の野鳥観察会
- ー 千町原 秋の保全活動
- ー 紅葉・冬芽の観察会

お知らせ

● 観察会の日程変更について

- ・ 八幡高原の野鳥観察会
（変更前）11月18日 → （変更後）11月17日
- ・ 紅葉・冬芽の観察会
（変更前）11月18日 → （変更後）12月1日

上記の開催日程が変更になりました。詳しくは12ページ「観察会案内」をご覧ください。

● リーフレットのリニューアルについて

高原の自然館を紹介するリーフレットが、散策ポイントや花ごよみのページを増やして、新しくなりました。高原の自然館内に置いてあります。ぜひ手にとってご覧ください。

● 館内展示の変更について

高原の自然館内展示パネルが秋冬用の展示になりました。秋・冬模様に変化したブナ林や、野鳥コーナーを体験してください。

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原 秋の生きもの観察会

開催日時：2012年9月15日(土) 9:30

講師：大竹邦暁・内藤順一・松田賢・和田秀次

今年度は損保ジャパンのSaveJapanプロジェクトの支援を得て「西中国山地の自然を守ろう！」をテーマに観察会を実施しています。今回で4回目となり、広島市内からモバスが出て、親子連れの方が参加してくださいました。一般参加も含め41人が高原の自然館前に集合しました。人数が多いので、植物担当の大竹先生・魚類両生類担当の内藤先生の班、植物担当の和田先生・昆虫担当の松田先生の班と二手に分かれました。

サラシナショウマ、ゴマナ、タンナトリカブト、アケボノソウ、ミゾソバ、キセルアザミなど秋の湿地を彩る植物を観察したり、アマガエル・カナヘビの姿も確認しました。

木の茂みに隠れていたツルニンジンの花を見つけ、その周りにかわいいつぼみもポツポツとありました。咲いたらきれいだろうなあと想像しました。また今回はヤマノイモの花がよく咲いており、ムカゴもたくさんありました。参加者にムカゴのおいしい食べ方を聞きました。こういったことも観察会の楽しみです。霧ヶ谷湿原に入り、設置されている看板を見ながら、和田先生から自然再生事業についてのお話がありました。牧場跡地から湿原に再生した経緯や工事法など、何度聞いてもおもしろい取り組みだなあと感じます。

昆虫はナツアカネやトラマルハナバチ、オオアオイトトンボなどを観察しました。松田先生にカンタンがいたよーと見せていただきました。「カンタン？何の名前だろう？」と不思議に思っていると草地に生息する昆虫の名前でした。「鳴く虫の女王カンタン」といわれ、「ルルルルルル」と美しく鳴くそうです。生態や生息環境などを教えていただくと、知らなかった昆虫も身近に感じることができました。

子供たちの興味津々なまなざしや、虫がいたときの喜びの声など、夏に続き、秋のいきもの観察会もにぎやかに行なわれました。

[このやよい]



金平糖みたいにかわいい花をさかせているミゾソバ。



外来種の説明をする大竹先生。



目の横の線が黒くつながっていることからアマガエル。内藤先生が解説して下さった。



ノリウツギの実を見つけた。



「鳴く虫の女王」と言われるカンタンを解説する松田先生。初めて見る昆虫やその生態に参加者は聞き入った。

【みなさんの印象に残った物】

「ミゾソバ、アカバナ、タンナトリカブト等が、きれいに咲いていた事(2)」「湿原のすばらしさに感動しました」「ささぶね、なでしこ、アマガエル、親子バツタ、山いもがそのまま食べられること」「山の生きもの、花の説明」「下界より早く秋が来ていた。風が気持ちよく花がかわいかったです」「道が安全で子どもたちがいても安心して楽しめた」「家族の方の参加でとてもにぎやかでした」「今年はアカバナの花が多くきれいだった」「すてきな花にたくさん出会えました(2)」「植物の種類が多かった」「生きものが本当に多様で豊富、楽しかったです」「ヘビのぬけがら」「子どもたちのイキイキとした姿、自然」「秋の植物の名前をたくさん知ることができました。多くの植物があることを知りました」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「市内にくらべて涼しく楽しく、先生方の説明を聞きながら歩けた事(2)」「すごく楽しかったです」「シダ、コケ、地衣の展示もしてほしい」「木の実などが料理をしなくても食べられるのが、初めて知りました」「参加者の皆さんも植物と良く知ってられてよかった。会話が弾んだ」「はやく湿原になるよう頑張りましょう」「植物、昆虫、両生類、いっぺんに観察できてよかった(2)」「この自然がずっと続きますように」「とても気持ちよくしぜんに親しむ事ができた」「親子ともに楽しめるイベントで良かったです(2)」「秋の自然に触れることができて良かったです。季節を変えてまた訪れてみたいです」



説明板を使って霧ヶ谷湿原の成り立ちや自然再生事業の解説をする和田先生。



アケボノソウがきれいに咲いていた。黄色い蜜腺に昆虫が集まり、吸蜜する間に花粉にふれるというしくみになっているそう。

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）

開催日時：2012年9月22日（土）9:30

講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信

広島県を中心に湿原再生の事業が進められている霧ヶ谷湿原で、植生調査を実施しました。この調査は、工事が実施された5年前から継続しているもので、再生の効果を判断したり、これからの保全活動を決めたりするために必要なものです。

今回は23人の方たちに調査に参加していただきました。調査を指導するのは大竹先生、佐久間先生、そして白川です。3班で調査するには人数が多いので4班に分かれ、2つの班が大竹先生と佐久間先生の指導のもとに調査を行っている間、他の2班は白川と一緒に湿原全体の観察をし、観察が終わったところで調査班と観察班が入れ替わりました。

予定どおりの時間に調査を終えた後に、広島県の研究員である山場先生から湿地での調査について解説していただきました。山場先生は、自動操縦で飛ぶ模型飛行機を使って、高画質の空中写真を撮影し、画像から湿原全体の植生を調べる方法を研究されています。この資料と、今回のような詳細な調査の両方を進めることで、より正確かつ全体的に湿原の状態を知ることができるのです。

最後に、二川キャンプ場の駐車場で、大竹先生と佐久間先生に総括をしていただき、解散しました。今年は広島県がモニタリング成果を報告する年です。この調査結果も、その中に盛り込まれることになっています。

[しらかわかつのぶ]



今回は大勢で調査を行った。



ミゾソバが優占するプロット。ここにはネナシカズラも見られた。



アブラガヤやマアザミが見られるプロット。ハンノキの低木が育っていた。



調査の最後には、山場先生から、広島県が実施している調査について紹介していただいた。

【みなさんの印象に残った物】

「アケボノソウの花卉」「守っていくたには大変な事をされているのだなと思いました」「非常に多くの種類の植物があることに驚いた」「二本立ての内容」「湿原の再生に対しての熱意と努力に感動しました。次世代へ残すべき風景だと思います」「植生の多さにおどろかされた」「名前の知らない草花が多くの種類ある事に驚きました。ハンノキの命のつなぎ方」「高原一面に秋の気配を感じます」「山野草の花々。自然、湿原(3)」「湿原のうつりかわり」「湿原の再生事業(自然全般)」「確実に霧ヶ谷の植物に詳しい人が増えている」「植物の名前は覚えられなかったけど、色々特徴があるのがおもしろかった」「調査に参加出来た事」



大竹先生と佐久間先生からの講評。

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「調査と観察の2本立てはとてもよかった」「説明がわかりやすかった(2)」「参加者が多く、来年以降も来てほしい」「湿原の植生が分かった」「湿原の今後の成り行きを見守りたい」「これからも参加してみたいです。植物種がたくさん。外来種もたくさんある」「植生調査でいままではなく若い人たちがたくさんされて良かったです。これからも若い人たちの参加を望みます」「自然があるのは心地よい」「色々な植物(花)がいっぱい」「この調査結果をまとめて下さい」「湿原が分からなかったけど、説明を聞き、興味を持ちました(2)」「色々説明が聞けてたのしかったです(3)」



最後のアンケートを書いて頂いて終了。調査と観察会の両方があったのが良かったようだ。

観 察 会 報 告

● 深入山の植物観察会

開催日時：2012年9月29日（土）9:30

講師：大竹邦暁・佐久間智子・和田秀次

7年ぶりに深入山の植物観察会が行われました。今回の講師は、大竹先生・佐久間先生・和田先生と植物の専門家がそろっています。最初に室内で、大竹先生より深入山の成り立ちや地質について、佐久間先生からは深入山の植生についてお話がありました。6500万年前の地殻変動により地形ができ、300年前の草を使う文化により、現在の深入山の草原があるという歴史的なお話は大変興味深かったです。また、佐久間先生の植生調査によると深入山は、帰化植物が少ない草原であり、生育する植物の3分の1は草原生であることがわかったそうです。このことから、草原を維持する継続的な山焼きの必要性がよくわかりました。

講義のあとはいよいよ登山です。登山道入り口ではウメバチソウの花が迎えてくれました。登るにつれ、サイヨウシャジン、キキョウ、ホクチアザミ、センボンヤリ、モリアザミ、センブリ、ヤマラッキョウ、シラヤマギクなどが観察でき、講師からそれぞれの特長や、似た植物との相違点など丁寧な解説がありました。頂上で昼食をとり、周りの景色を楽しみました。とてもきれいなリンドウが咲いていたのも印象的でした。

下りは森の中を通りエゾビタキの姿をキャッチしました。アキチヨウジ、キバナアキギリといった湿地の植物も咲いており、目を楽しませてくれました。

予定通り15時には下山し、最後のまとめをしました。

参加者のひとりに今日観察した植物を書いたメモ帳を見せていただくと、約100種類の種が記入されていました。深入山に生育する種は佐久間先生の調査によると282種ということから、3分の1観察できたことになります。

秋の草原をしっかりと満喫でき、植物をしっかりと見ることができた観察会となりました。

[ころのやよい]



佐久間先生と大竹先生のお話を熱心に聞く参加者。



サイヨウシャジンとツリガネニンジンの違いを、実際に見ながら教えていただきました。



お待ちかねのお昼おごはん。思い思いにお弁当を広げた。



ヤマラッキョウ。まだつぼみだった。

【みなさんの印象に残った物】

「センボンヤリを見たこと(2)」「ウメバチソウがきれいだった。オシベが一本ずつ伸ばして種の保存をするのが自然のいとなみがすごいと思った」「草原のながめ」「草原の植物の方向性」「今までしみじみ見なかった花を見られたこと」「ウメバチソウ」「リンドウ(2)」「モリアザミに出会えた事がうれしかった(3)」「青色の花たちです」「ママコナの種類を教えてもらった」「土質、石、火入れを続けた草原」「小さな小さなコゴメグサ」「ヤマラッキョウを見れてよかったです」「リンドウと山の風景」「草原の成り立ちについて話が聞けたのでよかったです」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「たくさんの植物があって、深入山にまた来たいと思った」「天気もすごく良かったのです」「柔らかい雰囲気がとてもリラックス出来ました。ありがとうございました」「地球というマクロから始まり、ルーペの世界まで楽しめ、とてもよかったです」「ゆっくりしたペースでしたのでよく観察できて楽しかったです」「久しぶりの山で気持ちよく、又、専門のお話を聞いて刺身状の石、氷河期からのお話や花々が楽しかったです」「これまで知らなかった花や本を教えていただき、よかったです」「登山前の解説が良かった。下山後のまとめも良かった」「登山にちょうど良い気候で先生方の話を楽しく聞きながらよい観察会です(2)」「深入山にたくさんの花のある事を知り、よかったです(2)」「スタッフの皆様ごくろう様です」「楽しかった(2)」「いつも登っているコースですが、説明を聞きながらは良いですネ。又、質問も聞けて”そ～なんだ”です」「見たことのない植物が見れてよかったです」「山に入って山を訪れることはすばらしいことだと思います。山のボキャブラリーを増やすためにまた参加したいです」「草花と草原の関係をわかりやすく説明してもらったので楽しかったです」



登頂記念にはいチーズ！芸北の山並みも見える気持ちのよい頂上で。



どんぐりをわけっこするちびっ子ふたり。

観 察 会 報 告

● キノコ観察会

開催日時：2012年10月6日（土）9:30

講師：川上嘉章・新谷正信

曇天の聖湖キャンプ場に39名の参加者が集まりました。毎回大盛況のキノコの観察会です。今日の講師は川上先生に加え、今回が初めてのお願いとなる新谷先生です。新谷先生は、日本産のキノコを全て写真で記録することをライフワークとされており、そのために拠点を福岡から広島に移されたそうです。お二人から、キノコの採取方法や危険防止の注意を頂いて、キャンプ場の中に別れていきました。聖湖キャンプ場は、マツ林、ナラ林、シバ草地など、半自然的な環境ですが、森林部分はほとんど手が入っていません。また、部分的には湿地もあり、狭い範囲に色々な環境が見られます。

9時40分から採取を始めて、約束の11時を過ぎると、みなさんが管理棟の前に戻って来ました。ブルーシートの上に、それぞれ採取したキノコを広げていき、先生方に同定していただきました。毒のあるものは「赤」、食べられるものは「黒」、その他のものは「青」のマジックで名前が付けられると、「え、あれ食べられるん?」「おいしそうなのに・・・」など、の声が上がっていました。ほんのり曙色のアケボノドクツルタケ、ひだが同心円状になっているウズタケ、サナギから生える冬虫夏草・サナギタケ、モグラの排泄物から生えるナガエノスギタケなど、それぞれの種にまつわる話しに、みなさん聞き入っていました。

この日は、食用キノコ21種、毒キノコ12種、その他35種の合計68種に名前が付けました。雨の少ない日が続いていた割には、人数が多かったおかげで色々な種を見ることができました。不明な種は、先生が持ち帰り、記録されず。食用のものは、採取した人が持ち帰り、晩ごはんの一品になったはずです。

ほとんどのキノコは、一年のうちわずかな間だけ「キノコ」の形で現れます。今年は暑かったせいか、この時期になっても夏のキノコがいくつも見られました。不思議で興味深い、キノコの世界を覗き見た観察会となりました。

[しらかわかつのぶ]



笹の陰に何やら「見つけ」。



こんな小さなものも、目ざとい人は見付ける。蛹から生える「サナギタケ」。



キノコ探しが、いつのまにか秋の草花観察になった模様。



現地でも、先生の解説を受けながら採取した。



「これはなんですか？」



一段落したところで、先生に解説をしていた。面白い話しに、つつい引き込まれる。

【みなさんの印象に残った物】

「笹が多くて歩きにくかった (2)」「天気もあって来て良かった」「マイタケが大きくてビックリしました (2)」「食べられるものと食べられないもの、判別されていないものの方が多いこと」「きのこの種類の多さ (3)」「涼しいと思っていたのに夏のものが多いと言われていたこと」「沢山の種類があること (2)」「シロマイタケを偶然見つけて、舞い上がるほどビックリした (4)」「広島山(キノコ)は豊富である」「タマゴタケって食べれるんですね!!」「短時間で近くでたくさんきのこがあったこと!」「このところ、乾燥した日が続いたのにキノコが出ていたこと。アカカバイロタケがたくさんみられたこと」「夏のきのこがまだ残っていて、少し少なかったこと、珍しいきのこが見れたこと」「ナガエノスギタケを取ったことです」「こんなに種類が多いことを知らなかった」「冬虫夏草があったので珍しかった」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「色々なキノコを見ることができ、楽しめた (2)」「食べられないのが多くて残念でした (2)」「いつも色々学ばせていただきます」「参加者の方にも詳しい方がおられるし、熱心にメモを取られていて、びっくりした」「毎年参加していますが楽しいです (2)」「また来たいです」「気候が寒くもなく暑くもなく、山の中を楽しく歩いて良かったです」「ビックリしました!シロマイタケがおいしそうだった。立派!」「色々なキノコの食べ方など教えてもらいよかったです」「キノコの興味が倍増した」「今年は気温が高いので夏のこと秋きのこと一緒に生えていた」「とても楽しかったです (3)」「時候もよくてきのこ狩りもとても気持ちよかったです」「身のまわりにこんなにたくさんあることにびっくりしました。山できのこをよく見るけど名前が分かるのもっと楽しくなると思いました」「マイペースで参加でき楽しかったです」「森林浴を楽しみました」「勉強になりました (2)」「たくさんの人でたくさんキノコがありましたばらしかったです」

観 察 会 報 告

● サツキマス保全の試み

開催日時：2012年10月8日（月）9:30

講師：内藤順一

聖湖から八幡高原に遡上してくるサツキマスは、農業堰があるために上流部までたどり着くことができません、堰の直下に集中して産卵していました。しかし、産卵に適した場所は限られているため、先に遡上した個体が産んだ卵を、後から遡上してきた個体が産卵のために掘り起こす、という状態が生じていました。そこで研究会では、サツキマスを一匹捕獲し、堰の上流部に放流することで、産卵場所を分散させ、繁殖率を高める取り組みを続けています。今回で3回目となるこの取り組みに、9人が参加しました。

現地に向かう前に、高原センターで内藤先生が長年にわたって蓄積されてきた研究成果について講義していただきました。特に、サツキマスの水中撮影のビデオ映像は、様々な産卵パターンが克明に映っており、参加者全員が画面に見入っていました。

約1時間の講義の後は現地へ移動し、いよいよ捕獲作業です。内藤先生と補助の田村さんが、刺し網を3本張り、網にかかったサツキマスをつまみあげてきました。概ね捕獲ができたところで、一匹ずつ体長と体重を計測しました。この日はサツキマスのオス10匹、メス12匹に加え、アマゴのオス1匹も捕獲しました。

捕獲した全てのサツキマスおよびアマゴは、2つのコンテナに入れて軽トラックに乗せました。間近でサツキマスを見ながら、オスとメスの違いや大きさ、重さなどが観察できました。オスの鼻が曲がっていることや、赤い婚姻色を示していることを間近に見ることができました。手早く観察した後は、上流部に運んで全ての個体を放流しました。

放流の翌日から、内藤先生と田村さんは八幡に通って放流個体の様子を観察しているので、おそらく数日中には産卵の報を聞くことができるでしょう。サツキマスという1種の生態から、人の活動と自然との関係を見つめ、色々なことを考えさせられた観察会でした。

[しらかわかつのぶ]



現地に行く前に、室内で内藤先生に講義をしていただいた。



講義の後、現地へ移動。



網を張る内藤先生。



たくさん採れた。



大きな「たいたい」



体長を計測。この個体はメス



参加してくれた地元の子も達に放流してもらった。



体長の計測と体重の計量を流れ作業で行う。



川は浅いけれど、川底は砂礫なので、産卵場所は何カ所もある。ちゃんと産んでくれるよう、みんなで見守った。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● ゴギの産卵の観察会

開催日時：2012年11月11日(日) 9:30

集合場所：大朝公民館(北広島町大朝)

講師：内藤順一

準備：基本セット、双眼鏡

定員数：30名

参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、中学生以下は無料)

大朝地区にてゴギの観察会を行います。ゴギは中国地方に生息するイワナ的一种です。あまり知られていないその生態を、資料や映像を見ながら内藤先生に解説していただきます。その後産卵場所へ移動し、実際の姿や産卵床の環境を観察します。運が良ければ産卵場面に出会えるかもしれません。幻の魚といわれる所以を体験しましょう。

● 八幡高原の野鳥観察会

開催日時：2012年11月17日(土) 9:30

集合場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット、双眼鏡

定員数：30名

参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、中学生以下は無料)

湿原、草原、田んぼと場所を移動しながら、野鳥を観察します。エサとなる植物との関連や、鳴き声の特長など図鑑だけではわからない情報も学ぶことができます。昨年見ることができなかったヒレンジャク、昨年出会えたシラガホオジロ。今年はどんな鳥に出会えるのかな？

● 千町原 秋の保全活動

開催日時：2012年11月23日(金・祝)

8:00～16:00(予定)

集合場所：山麓庵

参加料：500円

地域住民・ボランティアで支え合い行ってきた、千町原の秋の草刈りも9回目をむかえます。樹林の伐採、草刈りを継続して行います。作業から生まれる会話や交流も楽しみの一つです。ふるってご参加ください。詳細はお問い合わせください。

● 紅葉・冬芽の観察会

開催日時：2012年12月1日(土) 13:30

集合場所：高原の自然館

講師：斎藤隆登

準備：基本セット、ルーペ

定員数：30名

参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、中学生以下は無料)

「冬芽」って何だろう？花や葉がある時期では気が付かない観点から、植物の観察を行います。講師の斎藤先生オリジナルの資料をもとに、丁寧な解説を聞きながら、一種類ずつじっくり観察します。ルーペがあるとさらに細かい部分が観察できます。

今回から、苅尾電波塔の編集を担当することになりました。よろしくお願ひします。日中は暖かいものの、吹く風は少しずつ寒くなり始めています。融けた霜で濡れた植物を見るたびに秋を感じ、室内展示の生物達が身を寄せ合ったり、餌そっちのけで寝ているのを見ると、秋のすぐ後ろにいる冬の存在も感じます。食欲の秋だけで終わらないよう、色々な秋を探してみようと思います。(はたもと)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info